



県民の森 植物紹介 ③⑦ — ヤマウルシ (ウルシ科) —



ウルシに似た枝葉で、山に生えることからヤマウルシと名付けられました。ウルシは高さが10mほどありますが、ヤマウルシは3m程度と低いことから見分けられます。ウルシ同様、ウルシオールという油性成分が含まれ、触れるとかぶれる危険な木で、肌の敏感な人は近寄るだけでもかぶれることがあるそうです。野外活動をするときには、ぜひ覚えておきたい木のひとつです。

日本の木のなかで、いちばん初めに色づき始めます。ウルシは黄色くなりますが、ヤマウルシは赤や黄色やオレンジ色に染まりたいへん美しいです。

花は初夏、黄緑色の小さな花が多数咲きます。雄雌異株で、雌の木に楕円形の実が出来ます。果実からロウソクの原料が採れるため、昔は和ろうそくをつくっていました。樹液は、ウルシ同様、漆器や工芸品の塗料として利用されています。

冬芽は褐色でモフモフしていて、とても可愛らしく、思わず触りたくなりますが、もちろん触ってはいけません。葉の落ちたあと（葉痕）は、赤いハート形や三角形で、冬枯れの景色のなかでとてもよく目立ち、一度見たら忘れられません。



【上】冬芽 【下】葉痕 2020年3月26日



新緑 2019年6月12日



花 2019年6月14日



紅葉 2019年10月5日